

## 〈2〉 学生への修学支援は適切に行われているか

学生が充実した学生生活を送り、学生一人ひとりが満足して卒業することを目指して、入学から卒業までの一貫した学生生活支援体制の強化に取り組んでいる。例えば、近年特に目立つ状況として、退学者の増加がある。具体的には、2010年度以前は2%台であった退学率が2011年度に3%を超えて以降、同様の水準で推移している。近年の退学事由を見ると、「学修上の理由」が最も多く、次いで「授業料等未納（除籍）」となっている。「経済上の都合」や「就職」による退学の数値も併せると、経済的理由による退学者も多いが、「学修上の理由」で退学する学生が増えていることについて、充実した大学生活を送れない学生が増加しつつあることにも要因があると考えられる《資料VI-3》。そこで、2012年度に事務局に「退学者防止プロジェクト」チームを設置し、退学者削減に向けた活動を開始した。ここで提案された入学前の大学生活への不安を取り除き、知り合いを作る機会の場として入学前ガイダンスを実施した。

「退学者防止プロジェクト」においてまとめた答申《資料VI-6》の中で、退学者防止対策のための要因分析の必要性が問われ、すでにそれぞれの部署で蓄積されている学生の基本情報を全学的に集約、整理し、多角的な分析を行い、学生の入学前から、在学中、卒業までを一貫してサポートする総合的な学生支援を行うための検討組織「EMIR 検討ワーキンググループ」を2013年6月に設置し、検討を開始することとした《資料VI-7》。

経済的に安定した学生生活を送るための支援として、「米田吉盛教育奨学金」をはじめ、本学独自の奨学金として「村橋フロンティア奨学金」や卒業生団体の「宮陵会給付奨学金」、在校生父母会の「後援会給付奨学金」など、多様な奨学金制度を充実させ、適切な運用を行っている《資料VI-4》。

本学では、教育理念に共感し、学び、成長する意欲があり、大学教育を受けるに十分な学力を有する学生を受け入れるため、意欲や成果・経験を評価して選抜する「AO 入学試験」及び「各種推薦等入学試験」を実施している。これらの入学試験合格者（第一次手続者）を対象に、全学部において学習意欲や学習習慣の維持、動機づけ、入学前に必要な基礎学力の確認及び補習を目的とした入学前課題を実施している《資料VI-8》。

2012年度に開設した教育支援センターでは、4月のオリエンテーションから履修登録が確定するまでの期間、学生主体の取り組みである「新入生なんでも相談窓口アスクカウンター」《資料VI-9》を支援している。この取り組みは、大学を活性化させる目的で結成された学生有志による自主的組織「学生UD(University Development)委員会」が主催している。各種ガイダンスでは十分に理解できなかった履修登録や学生生活について、同じ学部学科の上位年次生がピア・サポートとして分かりやすく答えている。「新入生なんでも相談窓口アスクカウンター」の取り組みが始まったことにより、新入生が気軽に質問や不安を相談できるようになり、教務・学生等関連窓口の混雑も解消し、新入生が大学教育や学生生活へ円滑に適応できるよう図られている。

単位修得不良学生の学修指導は、各学部・学科で実施しており、学修進路支援部第一部(教務)では対象学生の呼出しならびに学修指導の基礎データである成績データ、履修登録状況、授業出席データ等を作成し、担当教員に提供している。

教育支援センター「KU スクエア」では、元高等学校教諭を学習相談員として採用し、学部生の日常的、継続的補習及び補充教育として学習相談を行っている。対象教科は、英語・

数学・国語(文章表現)の3教科であり、大学教育に十分には適応できない学生の基礎学力を補い、さらに学力を伸長させようとする学生の個別相談も行っている《資料VI-10》。また、学習相談への参加を促すため、このような潜在的な学習相談者を発掘することを目的とした課題解決のため学習セミナーを開催し、日常的な学習相談に繋がるよう施策を行っている。

こうした日常的な学習相談に関しては、前学期・後学期の終了時に、FD・学生支援推進委員会委員及びその他の教職員と相談員との情報交換会を開催し、学習相談の実施状況について情報共有し、学生の現状を理解している。

2012年度から始まった、学生からの優れた企画を支援する学生生活支援部による「学生チャレンジプロジェクト支援」で採択された、学生同士の勉強会(ピア・エデュケーション)「数学学習プロジェクト」《資料VI-11》についても教育支援センターが支援している。

学生が自らの学修の履歴、成長の記録等を確認できる仕組みの構築については、現在、セメスター終了時に学生に郵送している成績通知表にそれまでの合格不合格の科目の状況、セメスター毎のGPAを表記している。また現在、学修ポートフォリオについては、工学部総合工学プログラムで一部導入しているが、今後全学で導入するために「学修ポートフォリオ検討ワーキンググループ」《資料VI-12》を設置し、まずは学部、学科単位での導入について検討を開始している。

高度な学術研究に取り組む学生の学修支援については、大学院進学を希望する学生の中で成績優秀な学生に対して、「大学院特別科目等履修生」《資料VI-13》として、学部4年次に大学院の科目を履修・修得できる制度を設けている。2012年度は55人、2013年度は44人、2014年度は59人を特別科目等履修生として大学院の科目の履修を許可した。外国人留学生に対する学修支援については、学修進路支援部第一部(教務)と国際センターが協力の上、実施している。2014年度からは、共通教養科目の再構築の際に、留学生対象の日本語教育科目をそれまでの16科目から38科目に増やし、日本語教育の強化を行った。

障がいのある学生の学修支援は、教育支援センターが支援の窓口になっている。学内の専門部署(保健管理センター、学生相談室)と連携・共働し、当該学生の支援の要望により、当該学生の困り具合を把握・確認している。そして、学修進路支援部第一部(教務)及び第二部(就職)と連携して障がい学生の履修登録支援、授業担当者への教育的配慮、ノートテイカーの配置、定期試験の特別受験措置(別室受験及び時間延長)及び進路・就職に関する支援を行っている。また、これらの部署に入試センター等を交え、年間に数回、障がいのある学生等の支援についての打合せを実施し、支援対象学生に関する情報を共有している。

また、近年、増加傾向にある発達障がい学生への理解と協力、啓発を目的とした講演会及び研修会の開催及び「障がいのある学生とともに」(リーフレット)の制作(全専任教職員及び全学生への配付)を行っている《資料VI-14》。

さらに、学外(地域の自立・就労支援施設)の専門機関「よこはま若者サポートステーション」の協力を得て、主に進路に関する支援を行っている。

その他、各組織における特長的な取り組みとして、工学部総合工学プログラムでは、ピア・エデュケーションの取り組みである「自習塾」《資料VI-15》を開設している。本取り組みは、毎週水曜日の5・6限に1教室を確保して、学生が自主的に集まって相互に学習する場である。また、同学部物質生命化学科では、学生の企画・取材・編集による学科情報

誌「Active」を発行するとともに、総合工学プログラムの自習塾と同様なピア・エデュケーションの取り組みも行っている。